

語彙に関する課題

投野由紀夫（東京外国語大学大学院教授）

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会外国語ワーキンググループ（2026/1/21）

自己紹介：投野由紀夫

- 東京外国語大学大学院教授
ワールド・ランゲージ・センター長
- PhD (ランカスター大学)
- 専門：コーパス言語学、辞書学、英語教育学（CEFR、語彙習得）
- CEFR-J プロジェクト(2008～) を主導
- 前回改訂時、小中高の作業部会に参加し、4技能5領域の能力記述文、語彙数選定、学習評価に関する参考資料の作成等に携わった



報告の主なポイント

前回改訂における語彙数の算定根拠（+ 海外の動向）

改訂後の教科書の状況（語数・共通語 + CEFRレベル）

教科書の語彙選定のあり方について

報告の主なポイント

前回改訂における語彙数の算定根拠（+ 海外の動向）

改訂後の教科書の状況（語数・共通語 + CEFRレベル）

教科書の語彙選定のあり方について

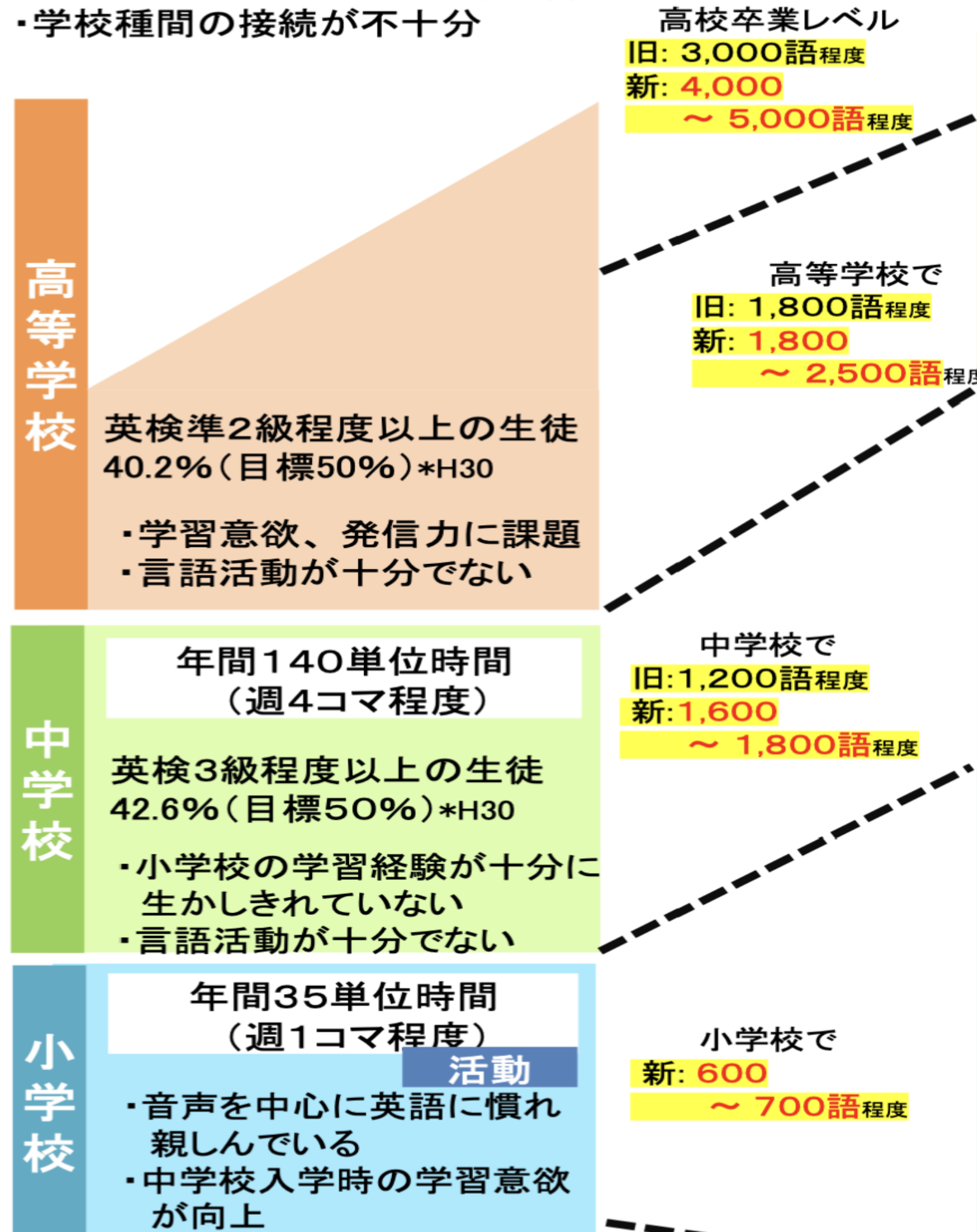
前回改訂における主な改善事項

小3～4年で外国語活動、5～6年での教科化、中学校も授業を英語で実施、高校卒業時の習得単語レベル4000～5000程度に

CEFR※
B 2 (英検準1級等)
B 1 (英検2級等)
A 2 (英検準2級等)
A 1 (英検3級等)

旧学習指導要領 (H20・21改訂)

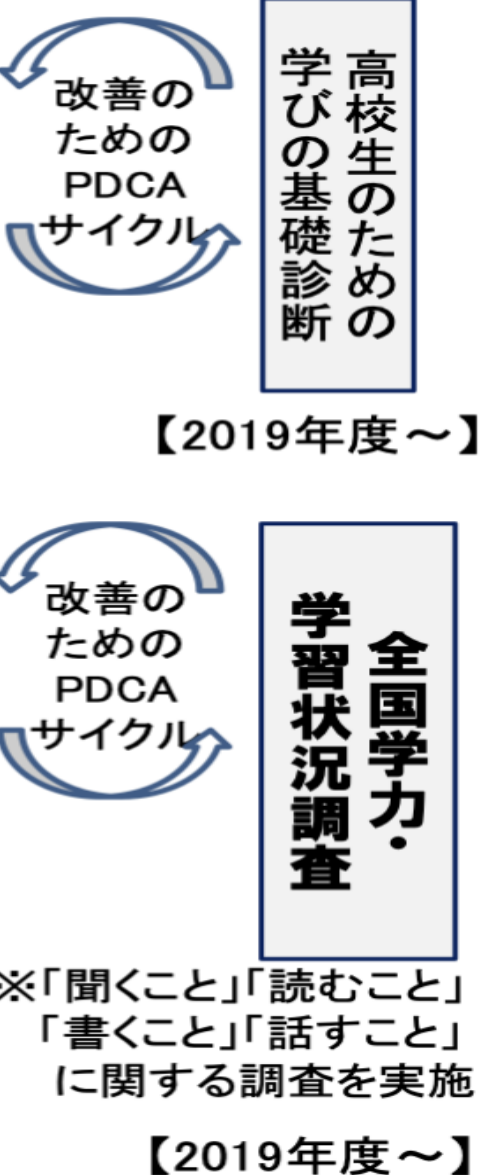
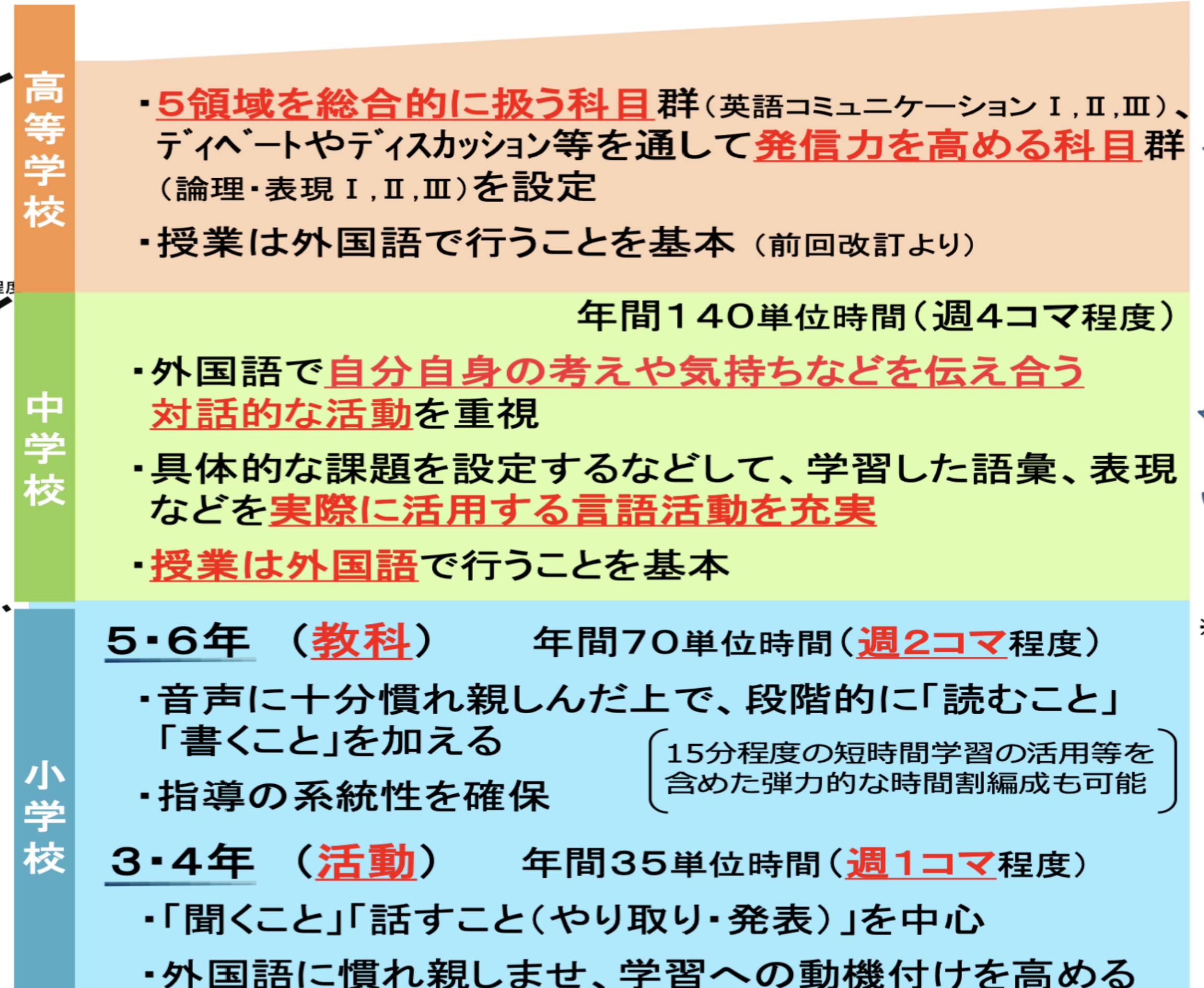
- ・学年が上がるにつれて意欲に課題
- ・学校種間の接続が不十分



学習指導要領 (H29・30改訂)

小学校2020(令和2)年度、中学校2021(令和3)年度から全面实施、高等学校2022年度(令和4年度)入学者より学年進行で実施

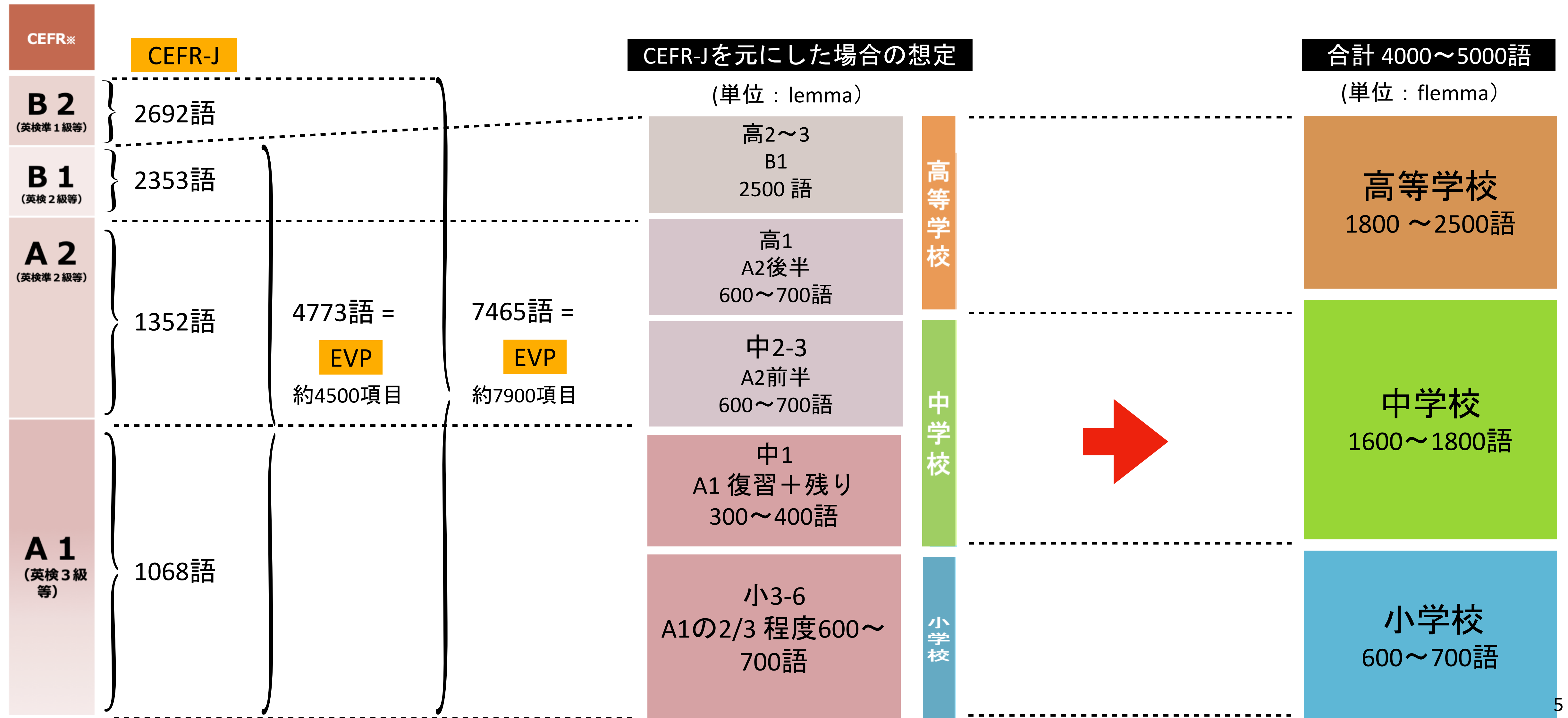
小・中・高等学校を通じた5つの領域別(「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り・発表]」「書くこと」)の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成



※CEFR：欧州評議会（Council of Europe）が示す、外国語の学習や教授等のためのヨーロッパ共通参照枠を言う。英検との対照は日本英語検定協会が公表するデータによる。

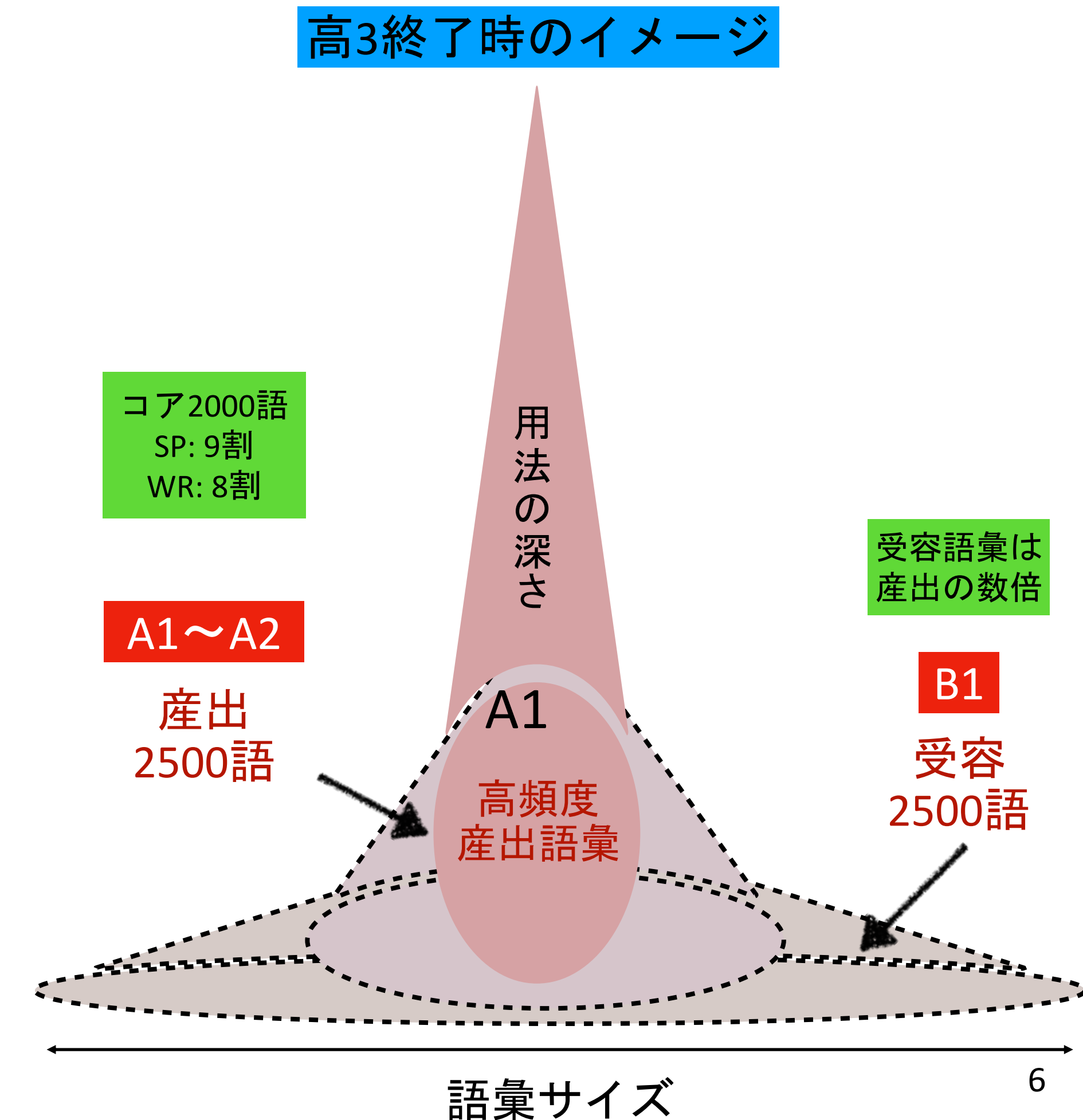
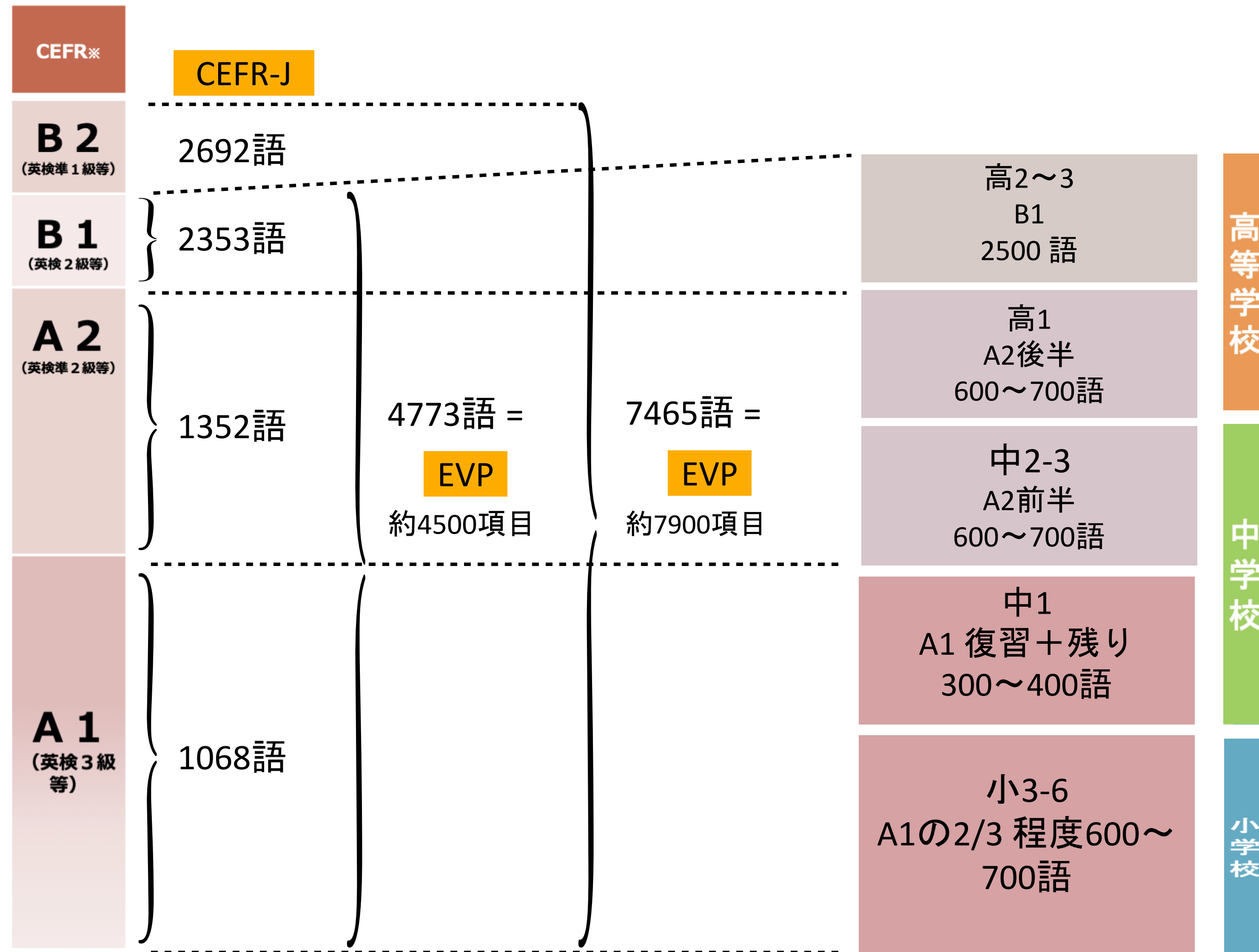
前回改訂：CEFRレベルと学習語彙

欧州では高校卒業時にB2レベルだが、日本ではB1レベルにおさえて設定



前回改訂：CEFRレベルと学習語彙

欧州では高校卒業時にB2レベルだが、日本ではB1レベルにおさえて設定



海外の語彙レベル設定

中国・韓国・台湾は語彙リストを参考資料として提供している

レベル	中 国	台 湾	韓 国	日 本
小	500 (100～300語追加可能)	最低300 (180語が綴りを書ける)	800	600～700
中	1600 (100～300語追加可能)	最低1200 (累積の語数)	1200	1600～1800 (合計：2200～2500)
高	3100 (200語追加可能)	4500 (累積の語数)	1000	1800～2500 (合計：4000～5000)
総語数	3100 (flemma)	4500 (flemma)	3000 (word family)	4000～5000
備考	<ul style="list-style-type: none">・ English Curriculum for Compulsory Education (2022) 小中の語彙リスト付・ English Curriculum for Senior High Schools (2017) 高校の語彙リスト付・ 中国の教科書は比較的、語彙統制された平易なテキストを大量に読ませる。	<ul style="list-style-type: none">・ 中学レベルで、1200語のリストと共に、2000語の参照語彙リスト（reference glossary）を配付している。・ 高校：College Entrance Examination Center 配付の語彙表に 4500語が記載・ 中国・韓国よりも教科書は高校レベルでは難易度が高い	<p>基本語彙リスト 3000語を提供：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 800語が小学校、1200語が中高共通語彙、残りはその他の科目で出す。3000語のうち9割を含むように教科書を作成する。・ 実際は、3000語以上の語数が教科書には含まれるが、台湾よりは難易度は低めに抑えられている。	参照すべき語彙リストは公表していない

報告の主なポイント

前回改訂における語彙数の算定根拠（+ 海外の動向）

改訂後の教科書の状況（語数・共通語 + CEFRレベル）

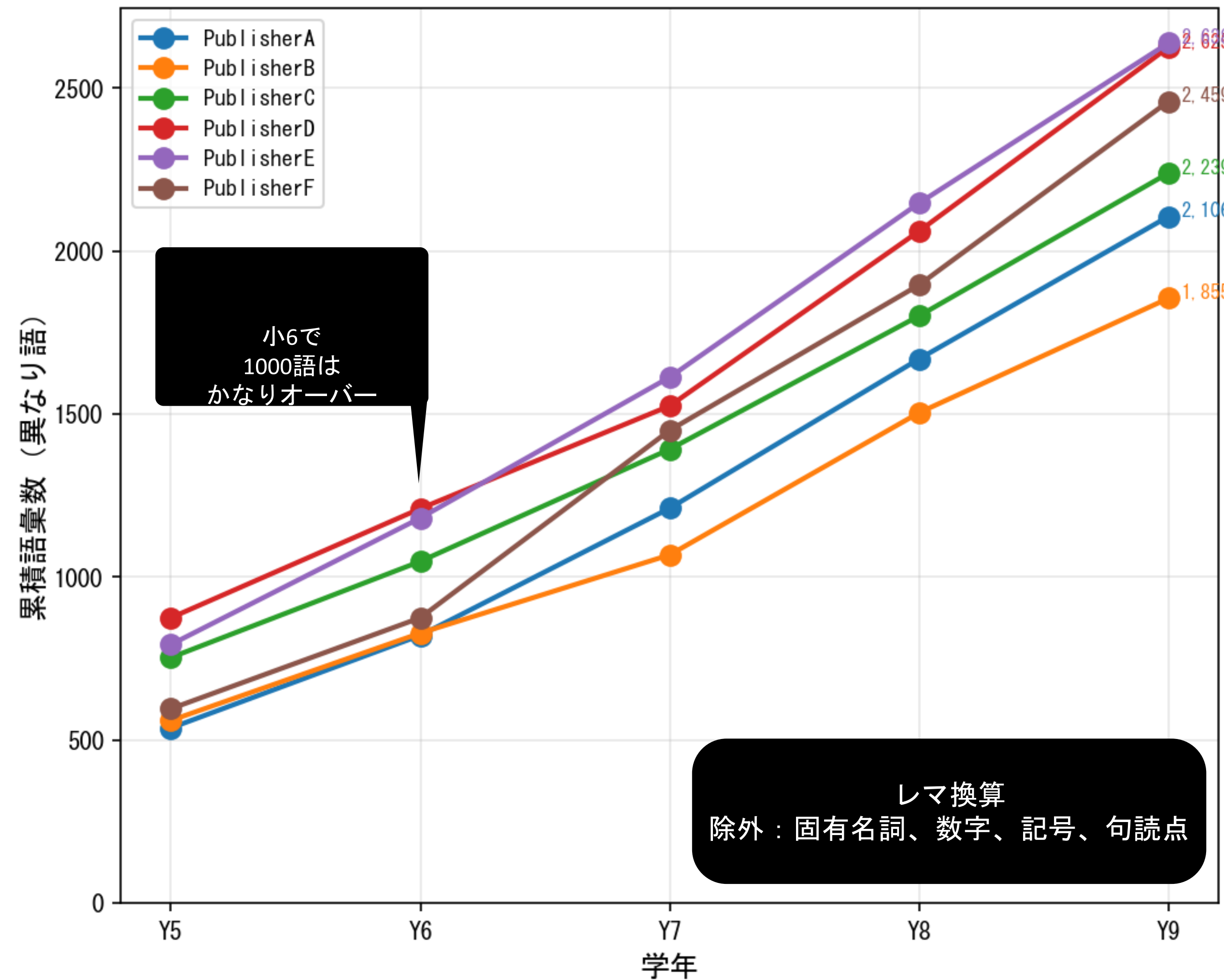
教科書の語彙選定のあり方について

改訂後の教科書の状況

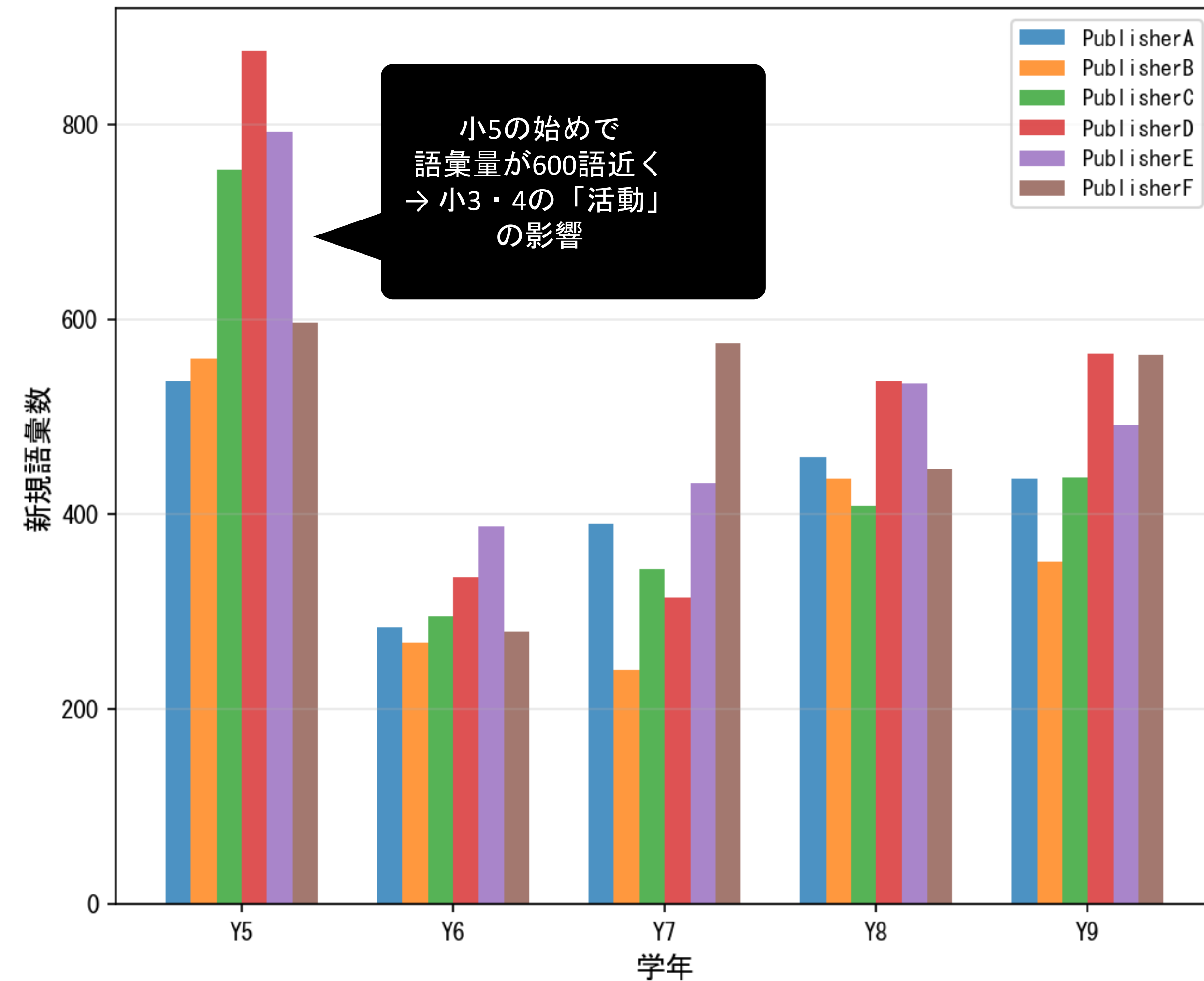
小中の学年別教科書の累積語彙数の推移

(注) 教科書の本文・新出語彙リスト・練習問題と教授資料のリスニング・スクリプトを合算したコーパスによる分析であり、リスニング・スクリプトは高校教科書に関しては種類が多いため含めていない

出版社セット別 累積語彙数の推移



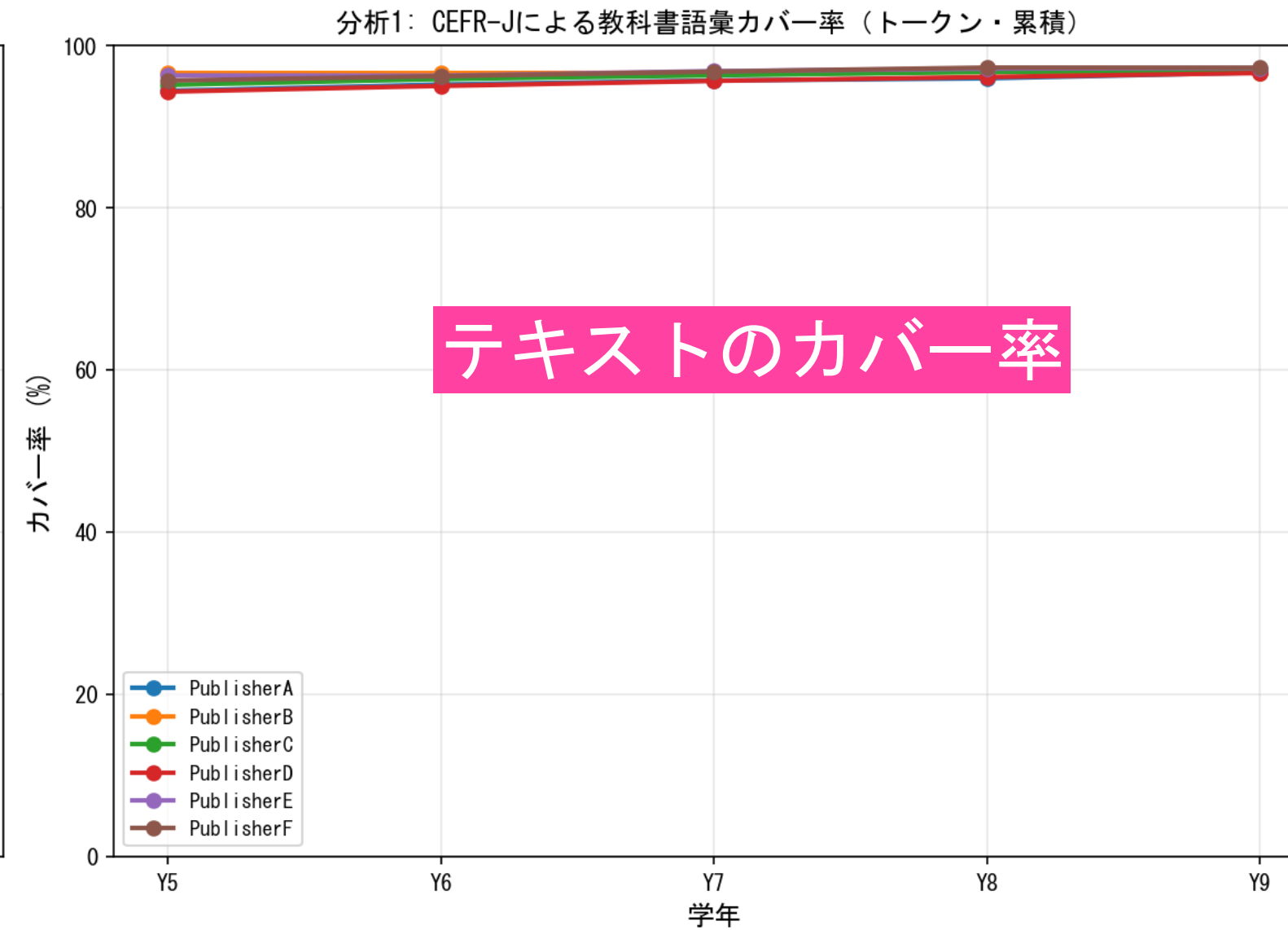
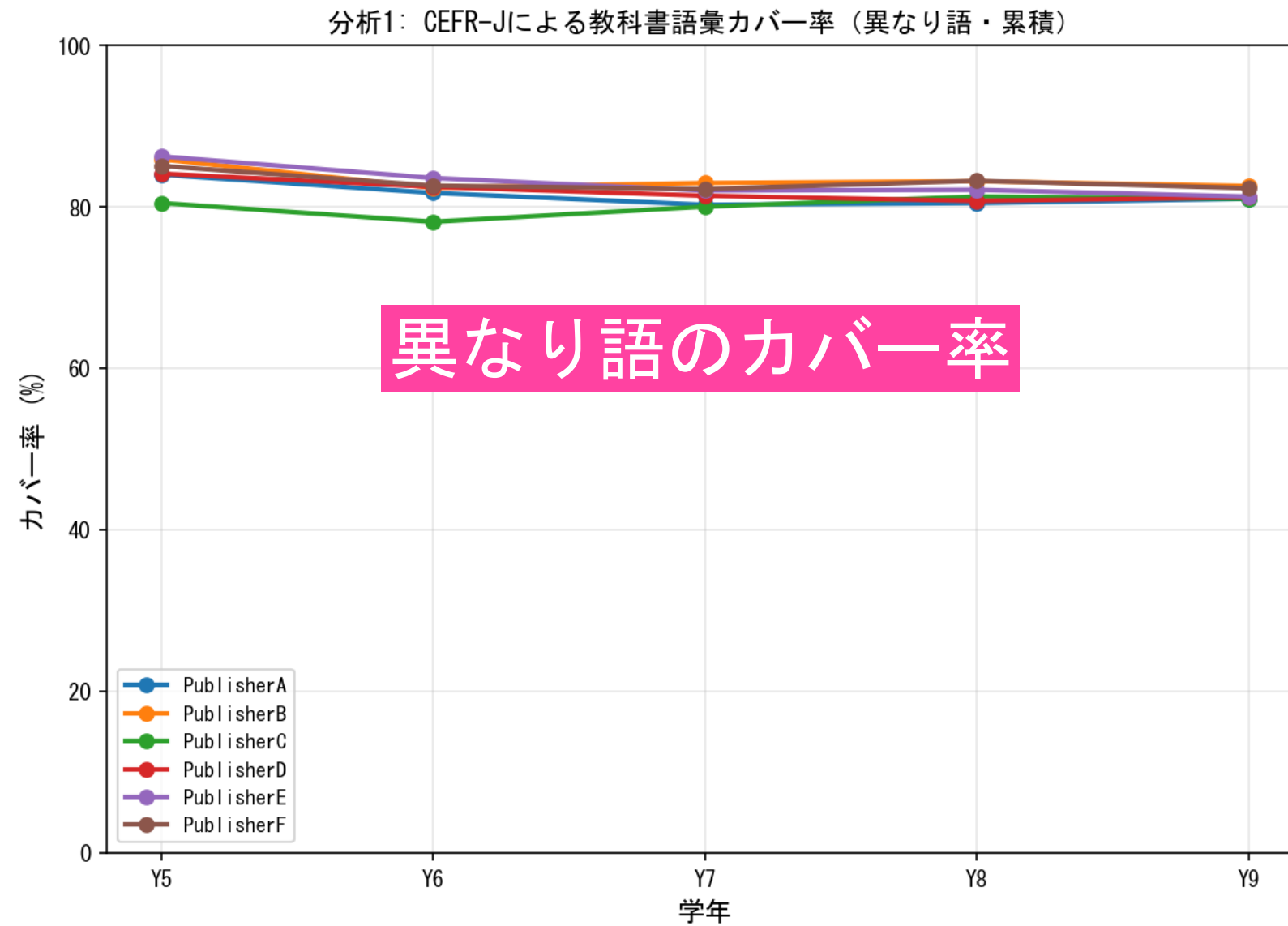
出版社セット別 各学年の新規語彙数



CEFR レベルとの関係（小中）

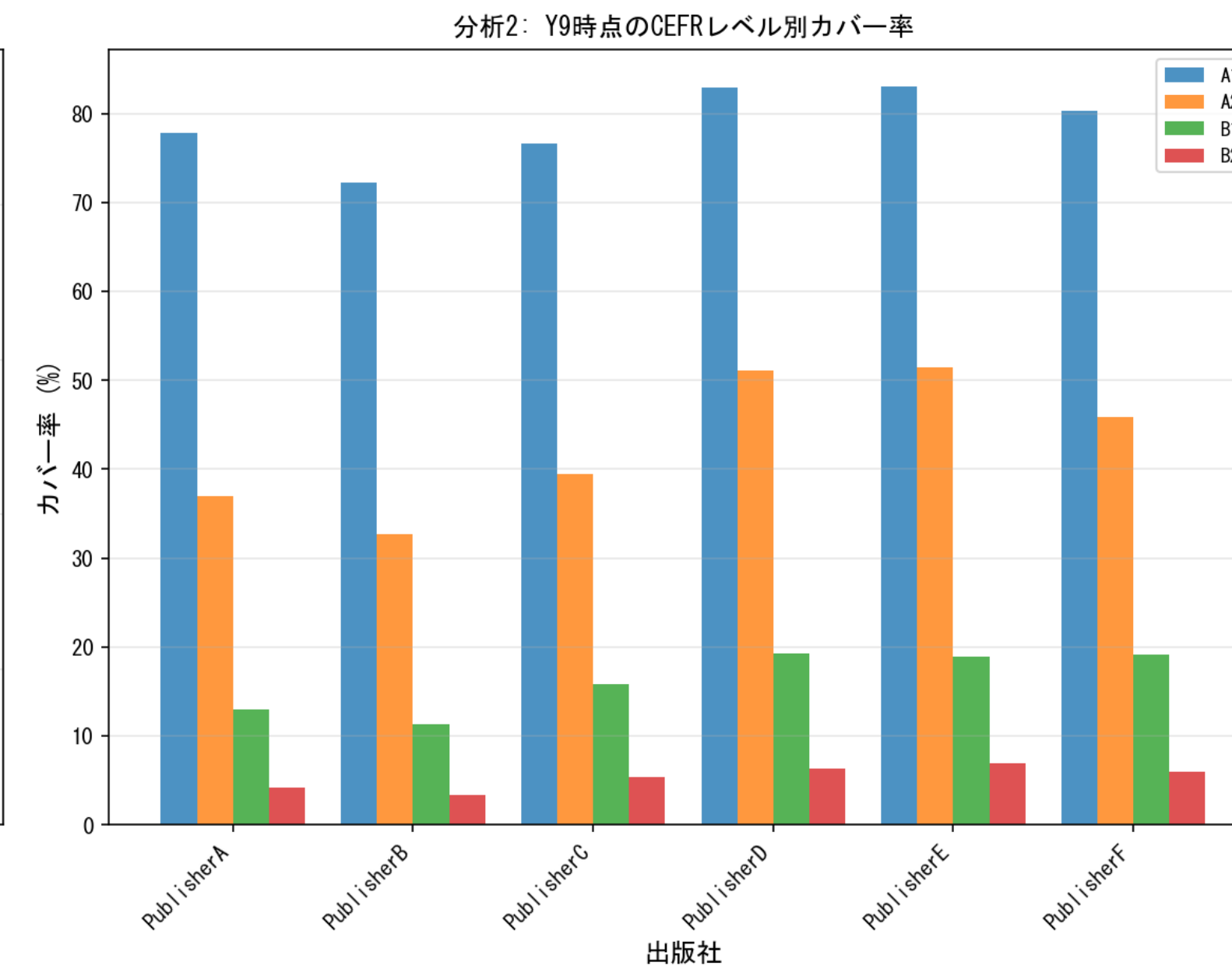
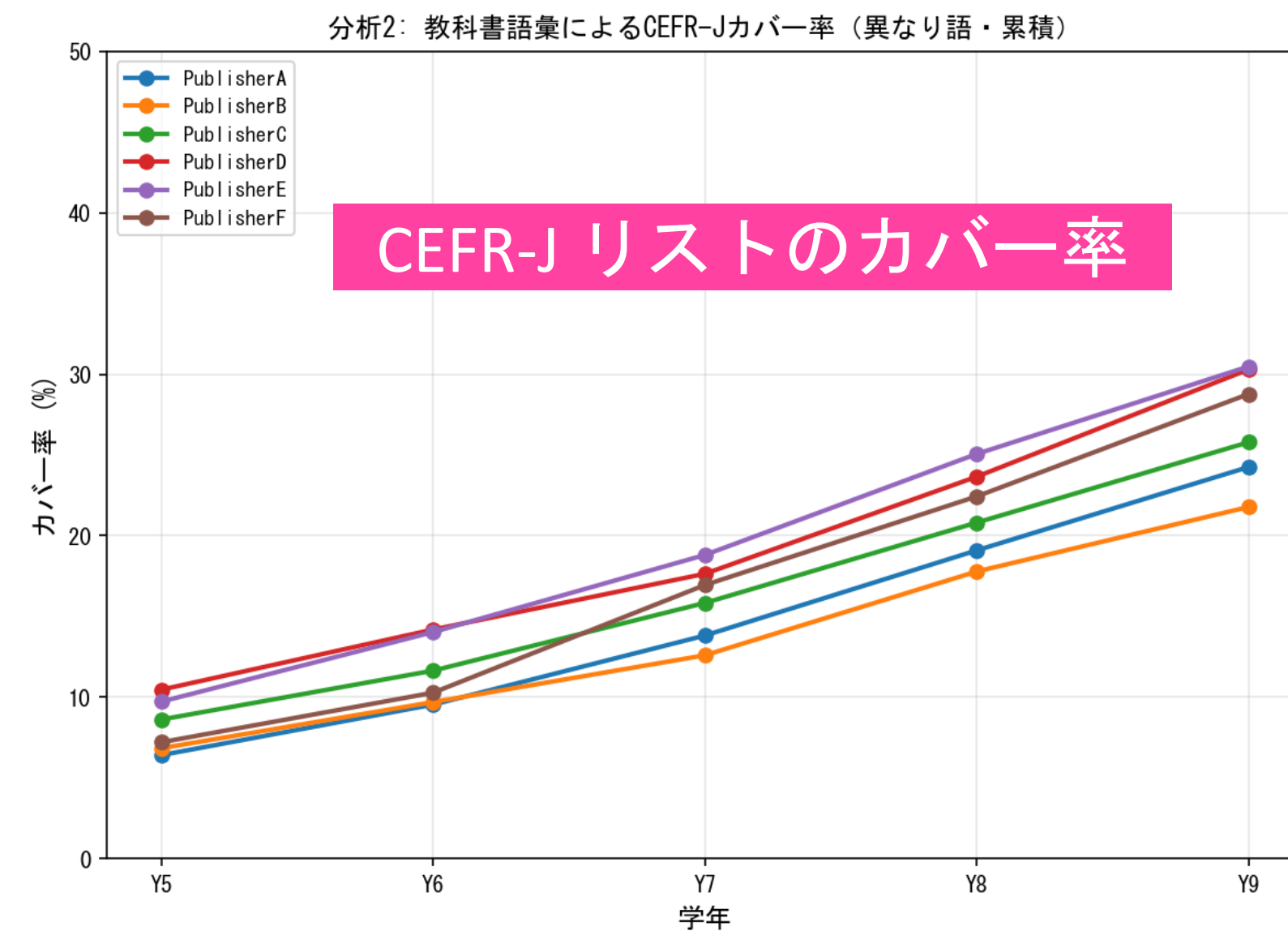
CEFR-J リストにない単語
約2割程度

(例) yen, unicycle,
crane, recorder,
rakugo, shrine



テキスト理解は CEFR-J の単語で95%
以上OK

CEFR-J リスト全体
(7500語) の30% 程度 (=
2500語)
が小中に出てくる



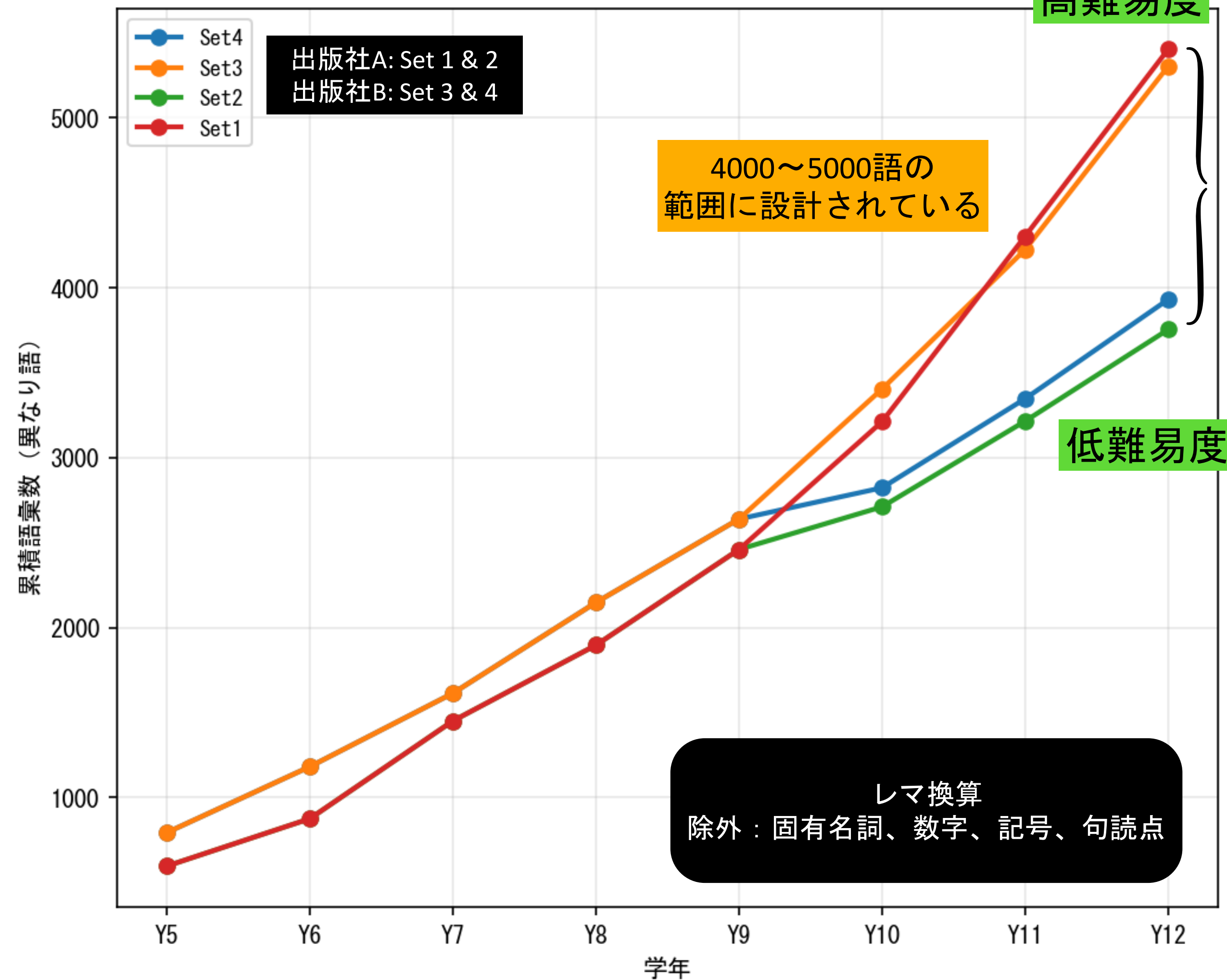
- 小5～中3の5年間総計
- A1レベルは7-8割はカバーできている
- A2レベルは30～50%とバラツキが大きい
- B1-B2 レベルの単語も一定数できており、語彙レベルが高すぎないかチェックが必要

(注) A2までの2500語が
カバーされているわけではない

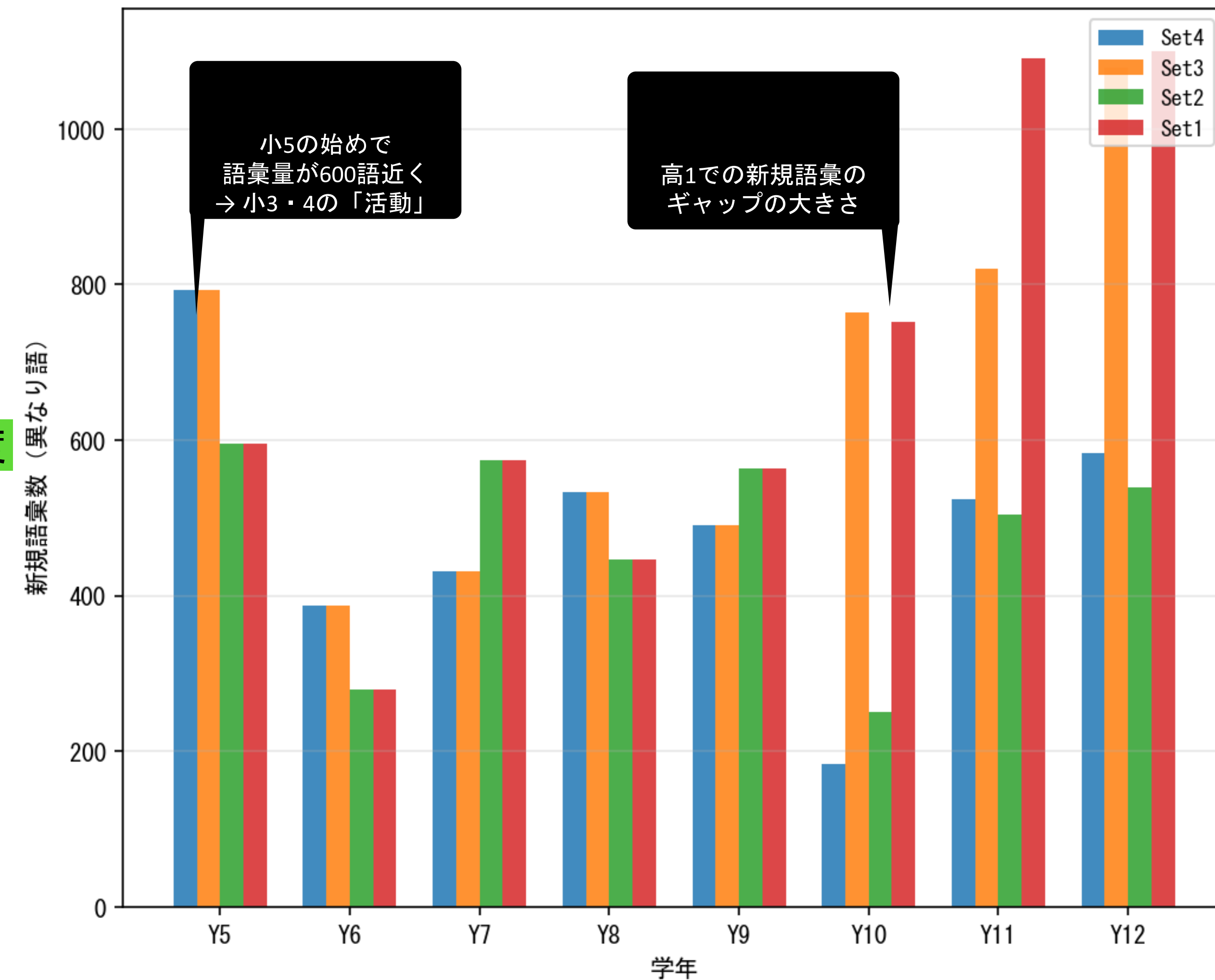
改訂後の教科書の状況

高校教科書の概要（高採択率の4シリーズで推移比較：英コミュ）

シリーズ別 累積語彙数の推移（匿名化）

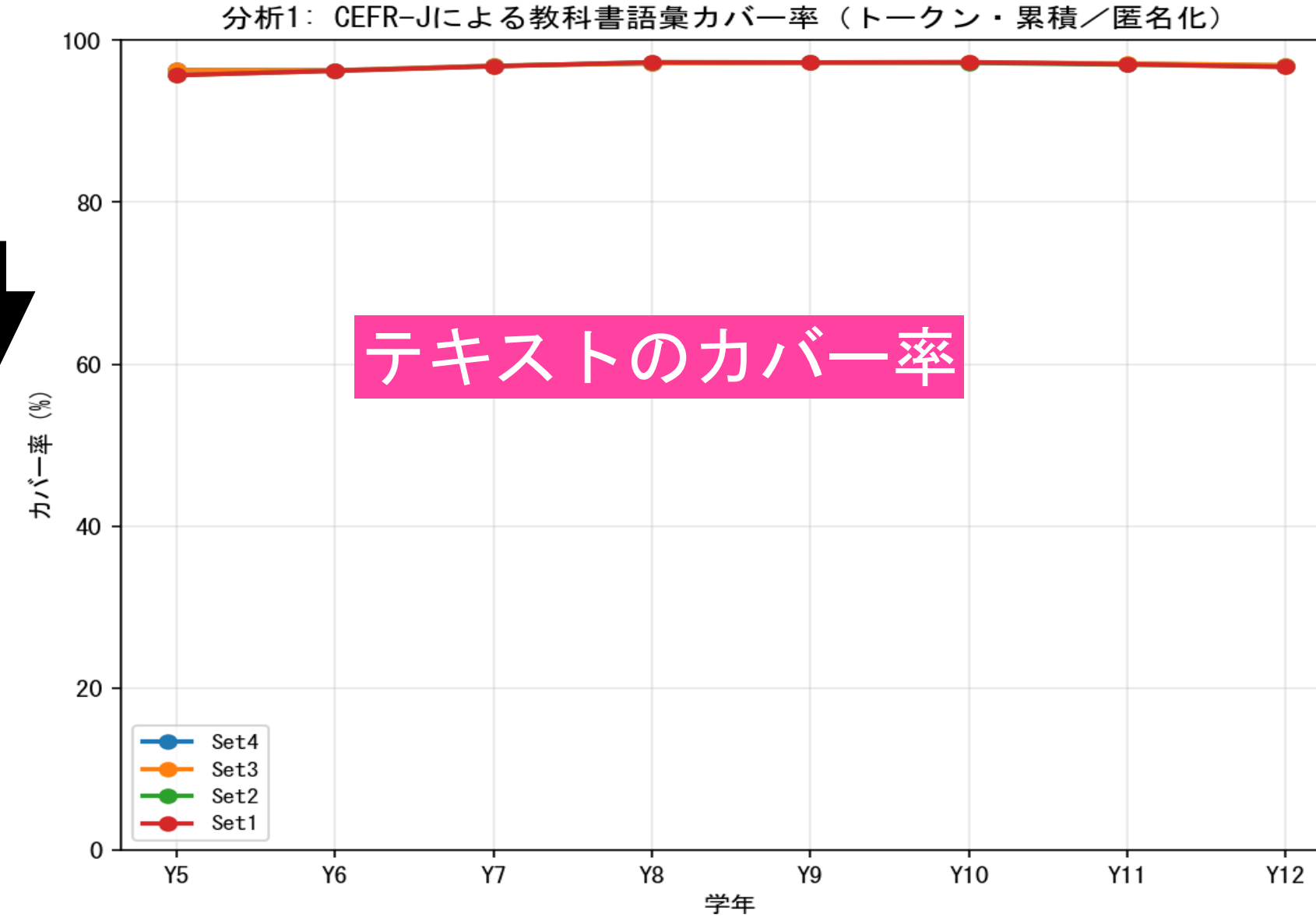
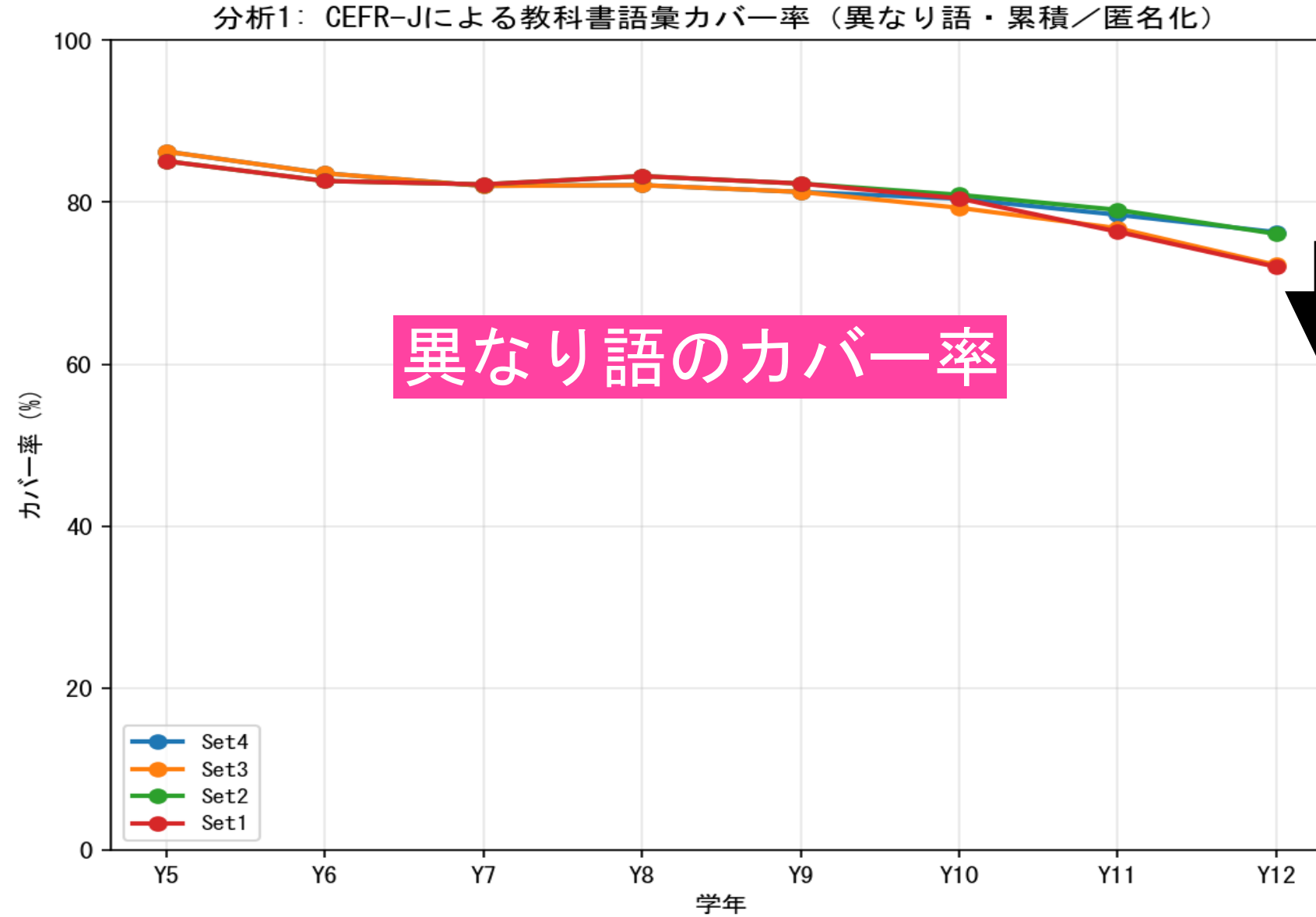


シリーズ別 各学年の新規語彙数（匿名化）



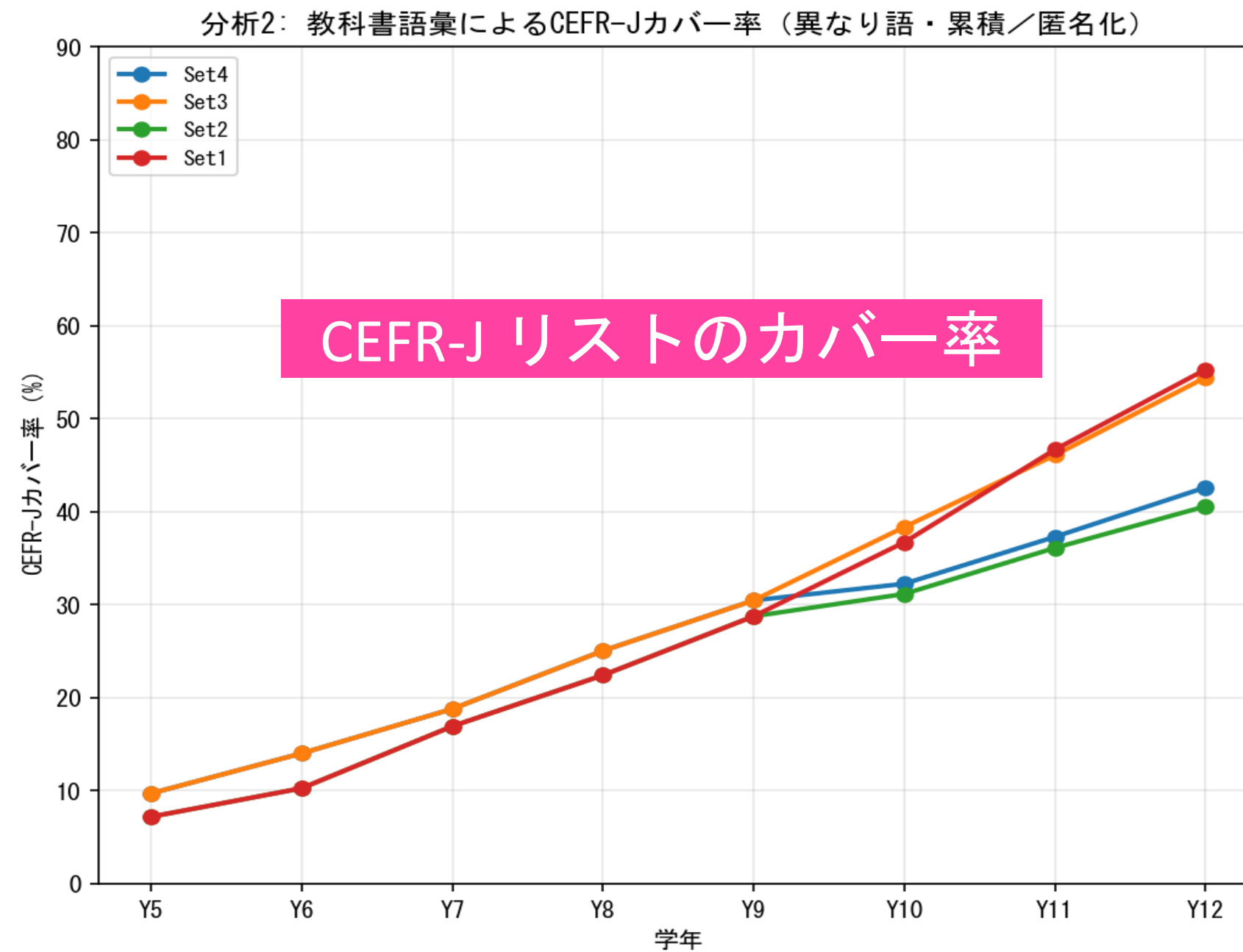
CEFRレベルとの関係（小中高）

中学と同じく約2割程度の単語がCEFR-Jのリスト外の単語だが、高2,3年になるともっとリストにない単語数が増大する

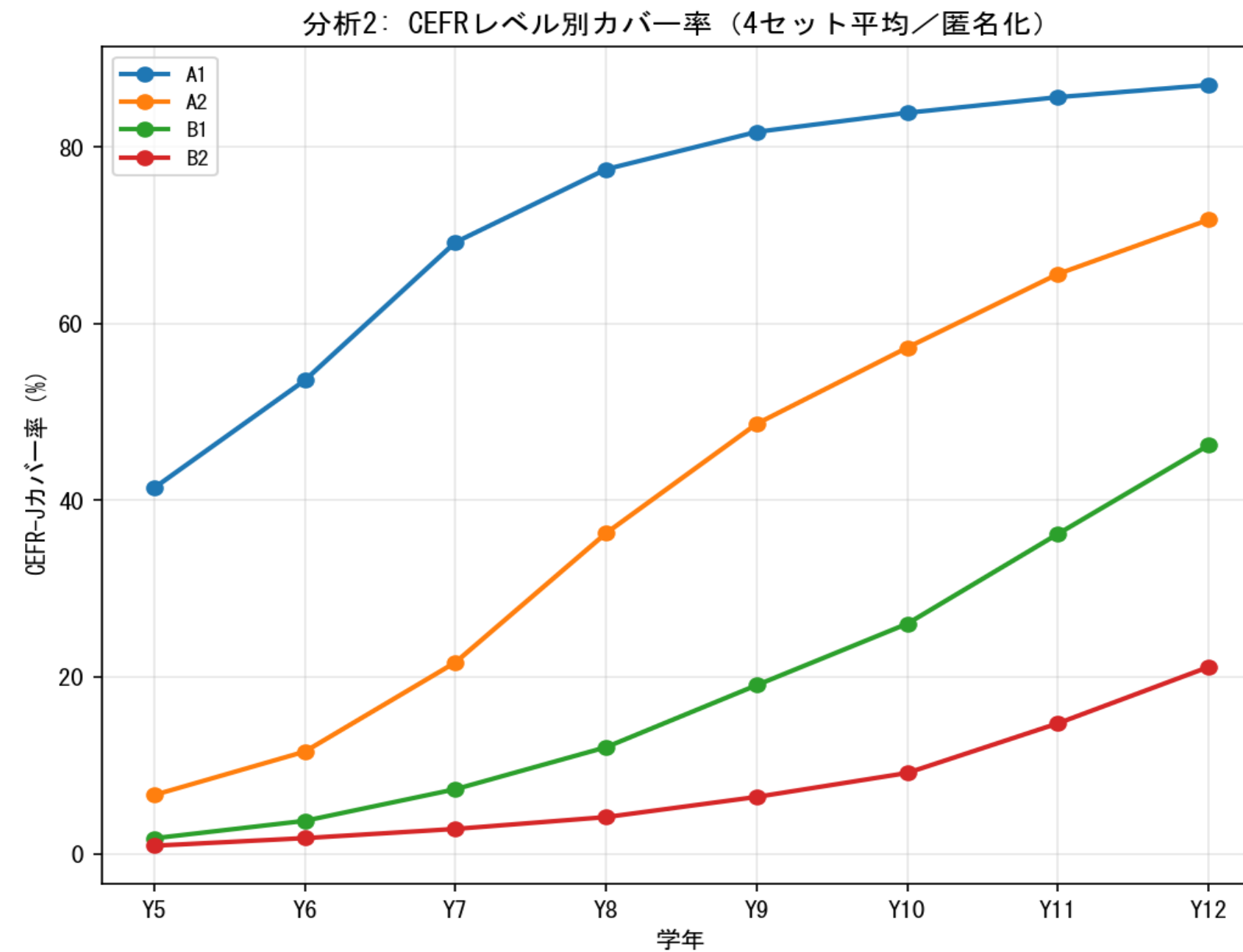


CEFR-Jに含まれる8割の単語で95%カバー率は維持

30% (=2500語) から
50% (=3500語超) まで
カバー率アップ



(注) 高3で5000語ならば
本来はCEFR-Jリストの
66%カバーのはずだが
1500語くらいズレがある

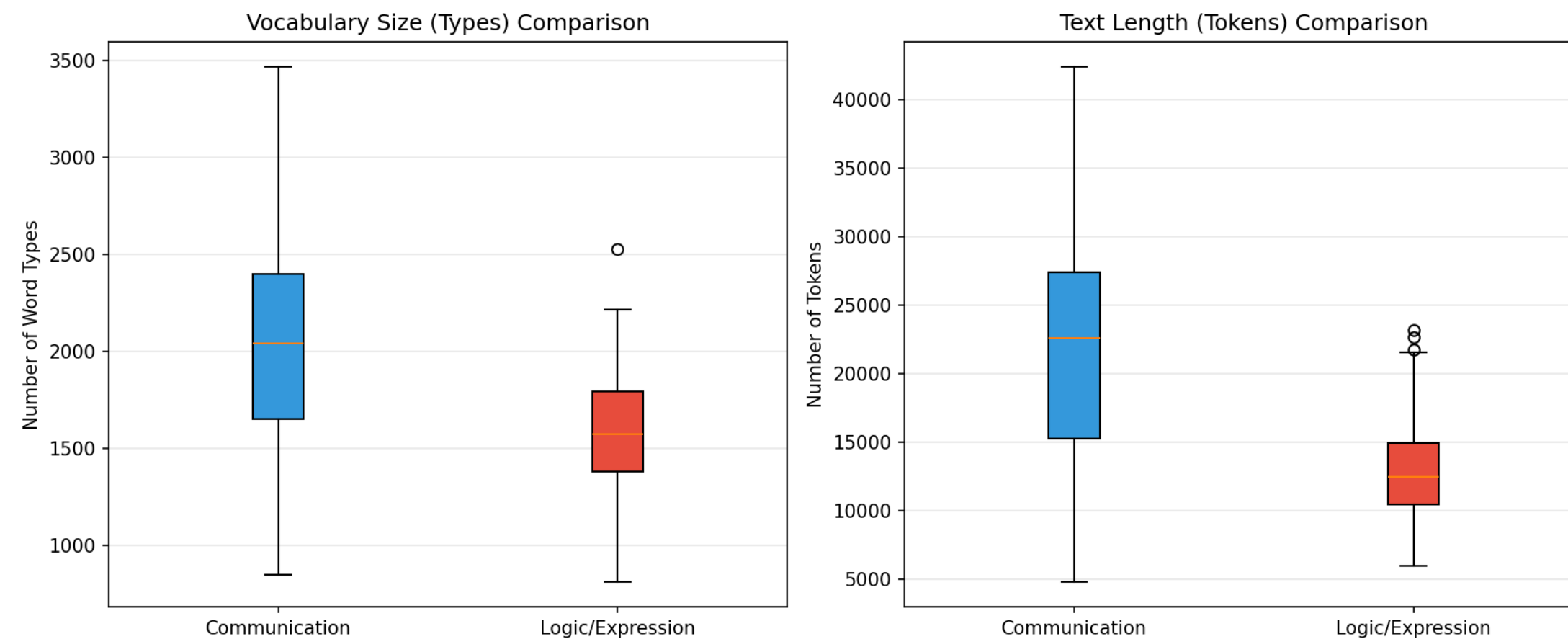


A1=90%
A2 = 70%

B1= 50%弱
B2 = 20%

高校教科書全体

教科書によるバラツキがとても大きく、品質管理的には課題がある



英コミュが論理表現よりも語彙量もテキスト量も格段に多い



英コミュがメインのインプットの役割を果たしている

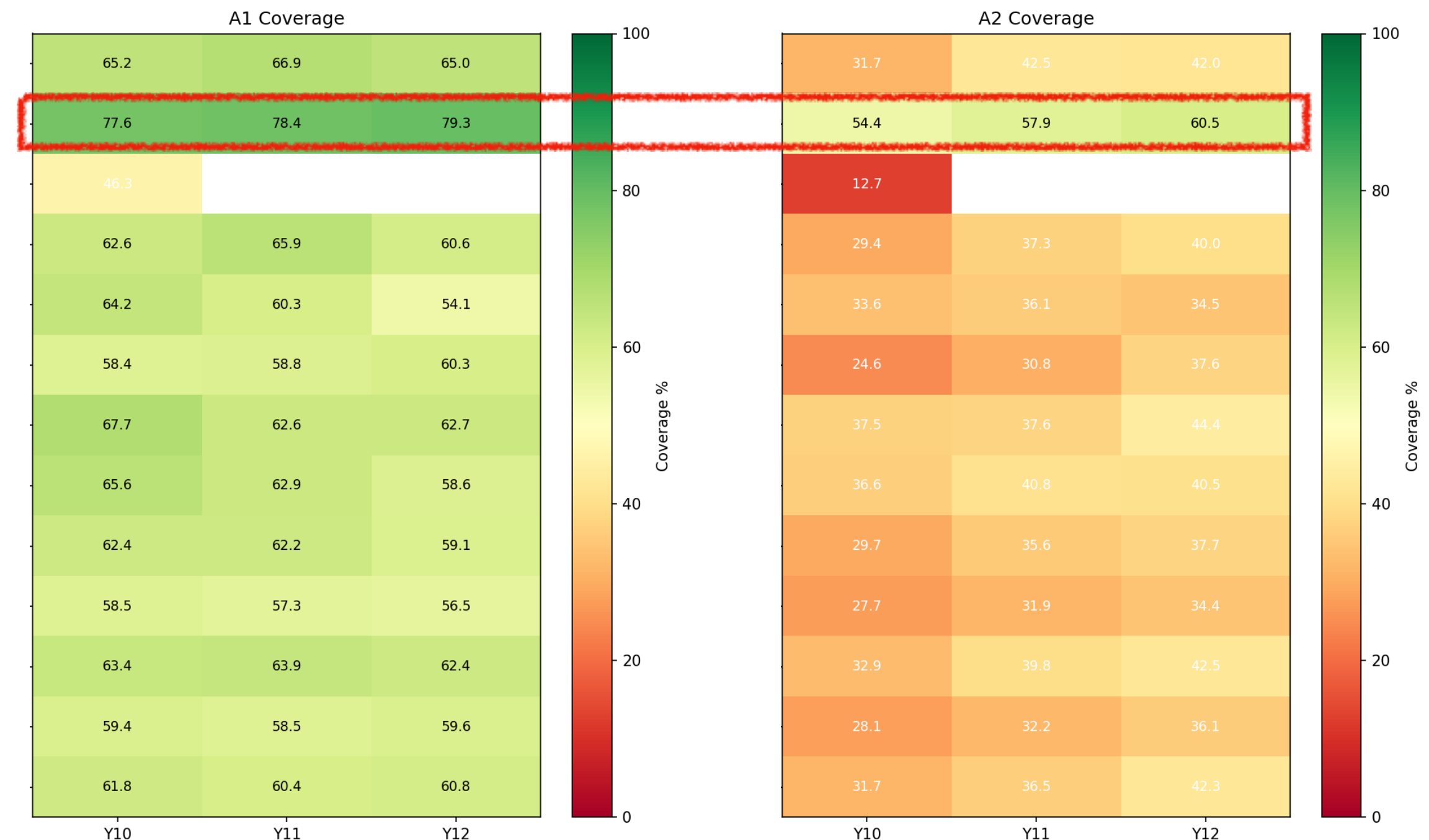



ただ、英コミュは外れ値が上下に多く、均質ではない

また、言語活動を重視するあまり易しいレベルの教科書の採択率がアップしている現状がある



しっかり語彙レベルを上げるインプットとしてのリーディングの役割も重視すべき



英コミュ+論理表現での CEFR カバー率（出版社別）
それぞれのセルが学年ごとのA1, A2 カバー率を表している
A1は緑色（6割以上）が多いが、A2は3,4割が多い
 はCambridge のテキスト。カバー率は顕著に高い。

報告の主なポイント

前回改訂における語彙数の算定根拠（+ 海外の動向）

改訂後の教科書の状況（語数・共通語 + CEFRレベル）

教科書の語彙選定のあり方について

語彙分析から見えてくるもの

全体には改訂指導要領の語彙数に各社よく対応しているが...

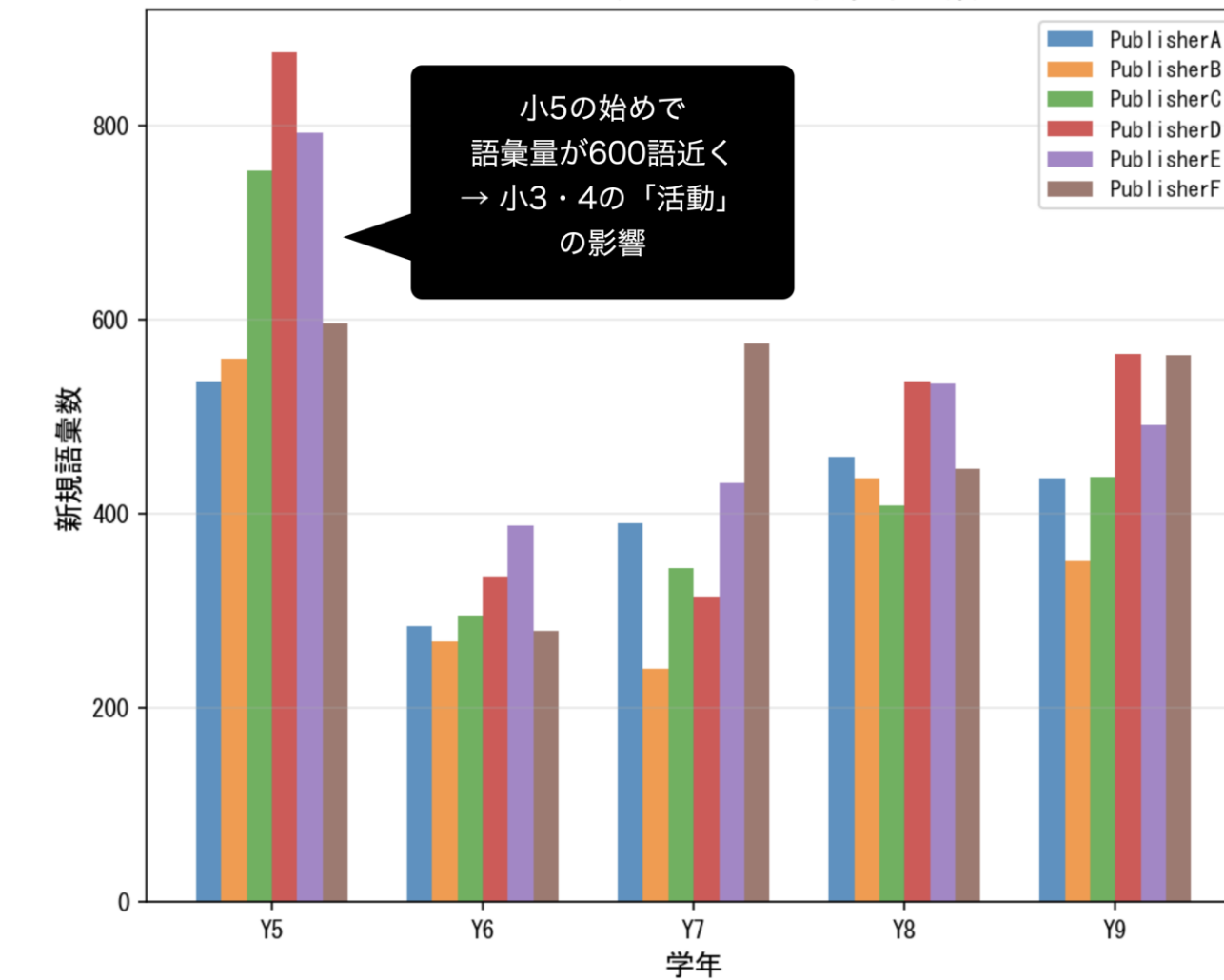
- 小学校は全体に詰め込み過ぎな印象

- 小3-4の「活動」を踏まえた小5の1年間の語彙量がどの教科書も多く、既に小学校基準の600語に達している（小6で1000語くらいが各社多い）
→ 教科書ガイドの英語も難易度が高い傾向
→ 語彙も活動も豊富でそこから選択的に学ぶというのが趣旨かもしれないが、“All you can eat”だとかえって何を優先すべきかわからなくなる

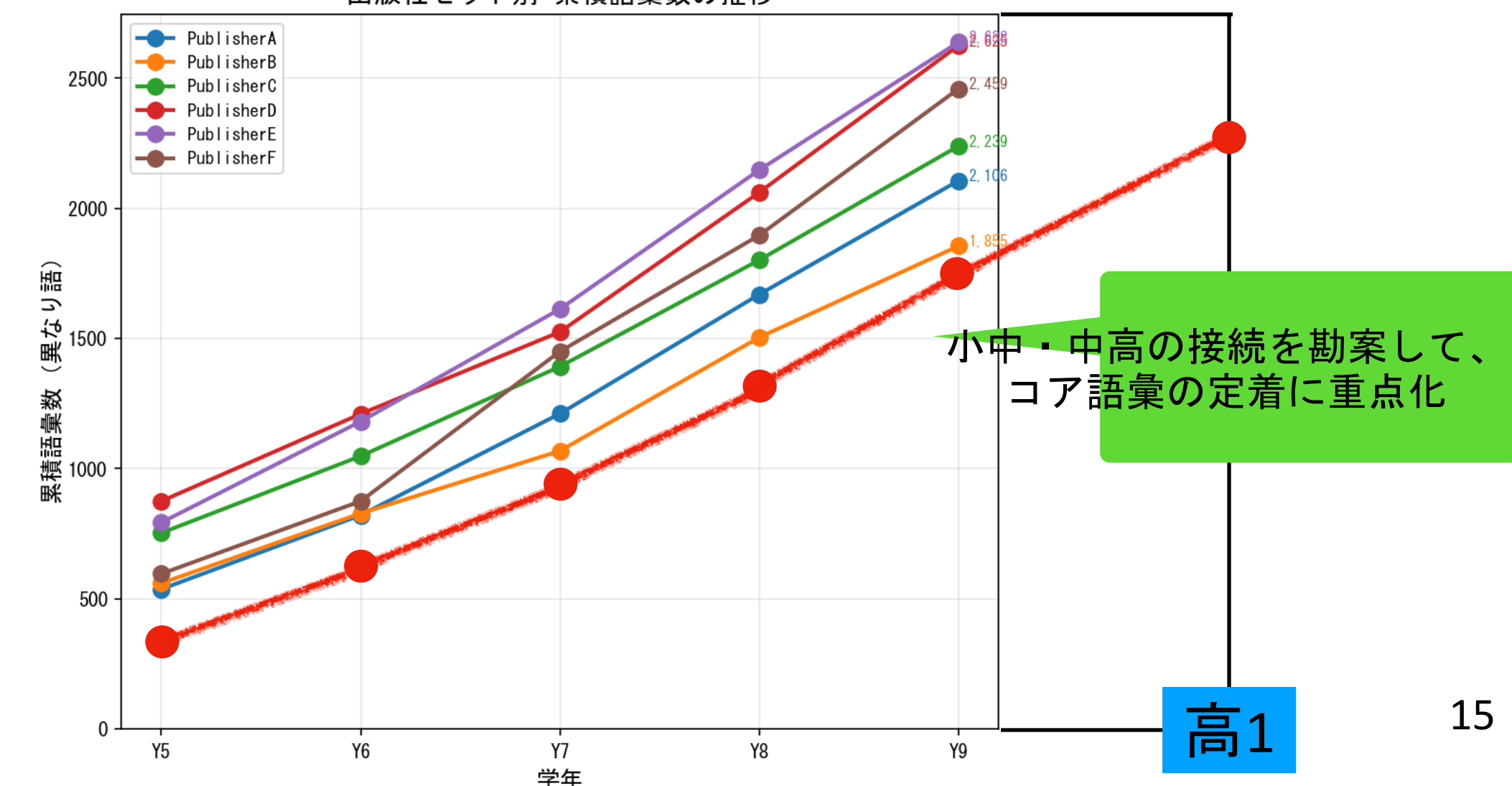
- 中学校はA2 = 2500語はカバーしているが...

- やはり少し語彙レベルが高い教科書が多い
→ 「社会的話題」の影響？
- 右図（赤線）のように小中・中高にのりしろを設け、小学校～高1までに緩やかに2500語を導入するイメージがよいのでは（コア2000語の導入を確実にする）

出版社セット別 各学年の新規語彙数



出版社セット別 累積語彙数の推移



高1

語彙選定の必要性

各教科書の共通語のチェックをすると・・・

- A2レベルまでの約2000語：会話9割、書き言葉8割を占める重要基本語
- 小中の6社で各 CEFR レベル別に全社共通に出現する数を調査：
 - **A1: 686語** (70.4%) ※A1(1068語)中、教科書に出現した975語を対象
 - **A2: 187語** (7.0%) ※A2(1352語)中、教科書に出現した962語を対象
- 何らかの語彙の指針を発信用2000語に行うことで、教科書の品質管理を行い、小中でできるだけベースになる2000語のカバー率を上げて高校に送る。
- 中国・韓国・台湾では、2000語～3000語レベルで参考語彙リストを発表しており、CEFR-J Wordlist も含め、多面的な資料を用いて効果的な語彙選定が可能な時代になっている。
- 小中の基礎力定着が効果的に行けば、中学・高校のA2～B1の部分が加速度的にスムーズに学習が進み、高校レベルではB1～B2レベルを目指せる応用力がついてくる。それにより、現行学習指導要領が目指した「1レベル上の英語力」を高校卒業までに目指せる。

(注) それぞれの教科書内では
A2レベル

CAN-DO と語彙

「言語の働き」をもっと前面に、定型表現と組み合わせてA1-2レベルのコアの学習項目に

- 前回改訂：CAN-DO形式の目標（4技能5領域）は、テキスト・タイプ別の受容・発信という観点では優れたまとめができた。
- 一方で CEFRの Can Do の中核となる「言語の働き」の要素は解説の一部に埋もれ明示的な目標文にならなかった。これを今回の改訂で「**言語の働き＋テキスト・タイプのバランス**」がとれると能力記述文形式の目標記述として素晴らしい。
- その際に、語彙は結びついてチャンク（定型表現）を作り、「言語の働き」を担う building block となることに留意。
- 「定型表現＋自由に入れる語」のセットで、「言語の働き」のCAN-DOと連動することで、シラバス構成の効果的な軸となる。
- 小学校ではこの「言語の働き」に気づかせながら形と意味の結合を習得し、中学後半からA2-B1レベルで「まとまった発話」＝情報構造に意識を向け、テキスト・タイプ別の受容・産出技能を身につける、という道筋がよいだろう。

イ 言語の働きの例

中学校学習指導要領解説

(ア) コミュニケーションを円滑にする

- ・ 話し掛ける
- ・ 相づちを打つ
- ・ 聞き直す
- ・ 繰り返す など

(イ) 気持ちを伝える

- ・ 礼を言う
- ・ 苦情を言う
- ・ 褒める
- ・ 謝る
- ・ 歓迎する など

(ウ) 事実・情報を伝える

- ・ 説明する
- ・ 報告する
- ・ 発表する
- ・ 描写する など

(エ) 考えや意図を伝える

感謝する

- Thanks! / Thank you. (A1)
- Many thanks! (A1)
- Thank you for 名詞 (A1)
- Thank you for ...ing (A2)
- I'm grateful for (A2)
- I appreciate ... (A2)
- You're the best! (A2)
- I can't thank you enough. (B1)
- I'm deeply indebted to... (B2)

ま と め

前回改訂における語彙数の算定根拠（+ 海外の動向）

- ・ 中学の語彙レベルは高めの設定で、再考の余地あり

改訂後の教科書の状況（語数・共通語 + CEFRレベル）

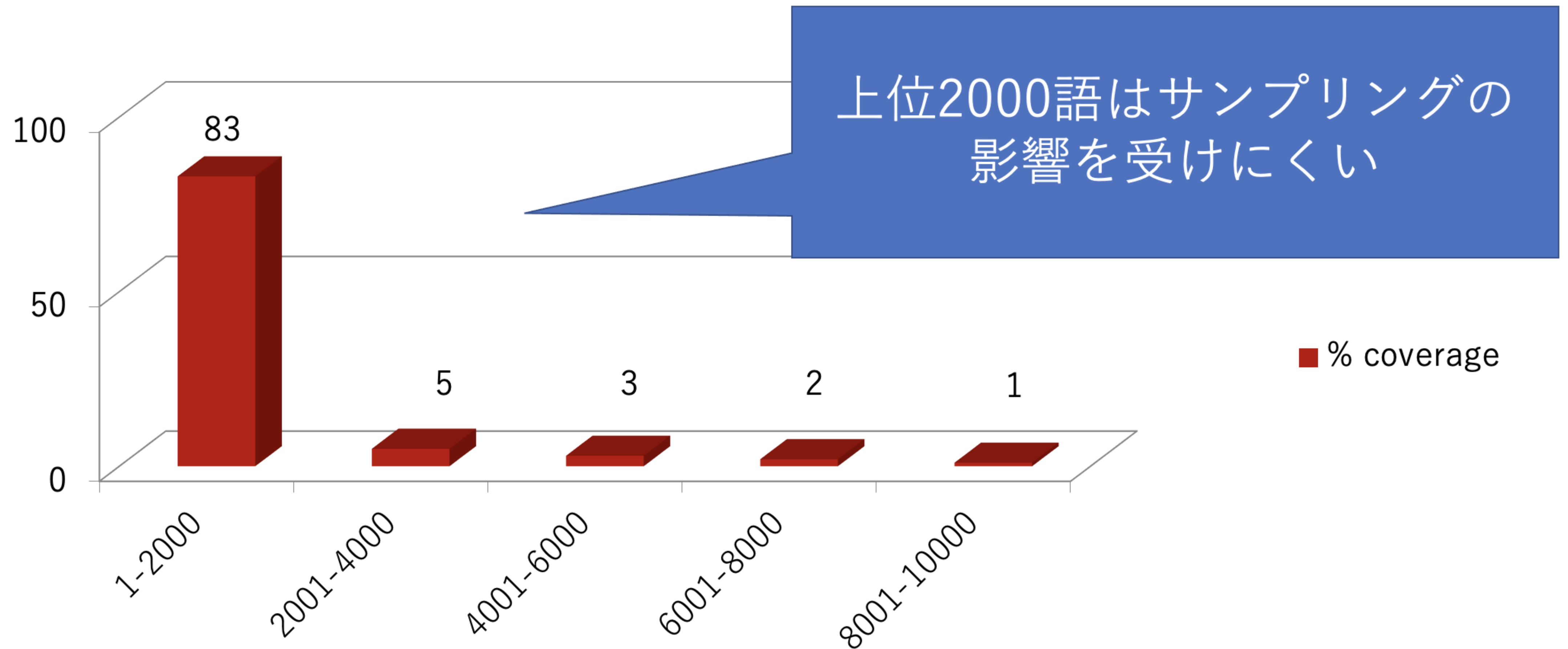
- ・ 小中の語彙数を見直し、基礎語彙の定着を図る必要性

教科書の語彙選定のあり方について

- ・ 基礎語彙選定、教科書の品質管理、語彙とCAN-DOの有機的な関係

参考資料：コア語彙2000語

2000語：話し言葉**90%**、書き言葉**80%**カバー



単位：lemma

出典：Cambridge International Corpus

参考資料：語彙力のイメージ

